



おまつりへ出かけよう！



ウルスリのすず

アロイス・カリジェ 絵 ゼリーナ・ヘンツ 文 大塚 勇三 訳 岩波書店 Eーカ

ウルスリはずっと遠く、高い山やまのそのおくの村にすんでいる男の子です。鈴行列のおまつりで、大きい鈴をかりたかったのに、もらったのはいちばんちっちゃい鈴でした。夏の山小屋に大きい鈴がかかっていたことをおもいついたウルスリはそのとたん、鈴をとりにでかけました。

ペニーさんと動物家族

マリー・ホール・エッツ 作・絵 松岡 享子 訳 徳間書店 Eーエ

ペニーさんはたくさんの動物の家族とくらしています。野菜も花も大きくみごとに育ったので、ペニーさんは農業祭に出品することにしました。動物たちも出品します。ヤギのスプロップは誰が入賞するか、審査員がきめるまでまっていられません。そこで農業祭の前夜、自分の目でたしかめるために、外へ出ていきました。



ぼくらの天神まつり

田沼 武能 文・写真 福音館書店 386ータ

岐阜県の上宝村本郷には、むかしから子どもたちだけでおこなう「天神まつり」がたえられています。奴や山車で行列をつくって、天神さまにおまいりし、獅子舞いを奉納します。そのあと村の家を1けんずつたずね、ハナというお祝いのお金をもらいます。ハナは本郷の子ども会の1年間の活動資金や、参加した子どもたちへの給金になります。



おひさまいろのきもの

広野 多珂子 作・絵 福音館書店 Eーヒ

あるむらに、びょうきでなにもみえなくなった、ふうというおんなのこがいました。それでも、はたらいっているかあさんのために、いつもいえのてつだいをしています。ふうは、なかよしのさっちゃん、たみちゃんとあきまつりにいくことをたのしみにしていました。かあさんはふうのために、あきまつりにきるきものをつくってあげることにします。



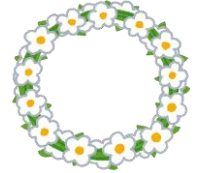
とぶ船 上・下



ヒルダ・ルイス 作 石井 桃子 訳 岩波書店 933ーL

ピーターがうすぐらいちい小さな店みせで手てに入れた船ふねは魔法まほうの小船こぶねでした。ピーターたち4人きょうだいは時間旅行じかんりょこうにでかけます。ウィリアム征服王時代せいふくおうじだいで出会であったマチルダがやってきた時とき、おとうさんの建てた古い教会きょうかいを目にします。教会きょうかいの修理しゅうりの費用ひようをたすけるためのお祭りのバザーに、マチルダは魔法まほうの船ふねをししゅうしたふくろを出品しゅつぴんしました。

やかまし村はいつもにぎやか



リンドグレン 作 大塚 勇三 訳 岩波書店 949ーR

日ひがいちばんながくなる夏至げしのころ、やかまし村むらでは『夏至げしの柱はしら』を立てます。みんなで森のおくふかくにでかけ、葉はのついた枝えだをとります。かえってくると、花はなのさいているリラの枝もいっぱいとり、夏至げしの柱はしらにかざりつけました。柱はしらを立てるとみんなでそのまわりをおどります。草原くさはらのうえでのむコーヒーはいつもよりずっとおいしい味あじがしました。

おひゃくしょうとえんまさま 中国民話



佐藤 忠良 画 君島 久子 再話 福音館書店 Eーサ

むかし、ちゅうごくには、えんまさまのおまつりがあり、ひとびとはおそなえものをしました。ところが、えんまさまはよくばりだったので、おそなえをけちけちしていたおひゃくしょうを、ひどいめにあわせることにします。すると、こおにが「いねがみのらないように、あたまがほそく、ねっこがふとくなるまほうをかけてやりましょう」といいました。それをきいたおひゃくしょうは、さといもをうえることにします。